

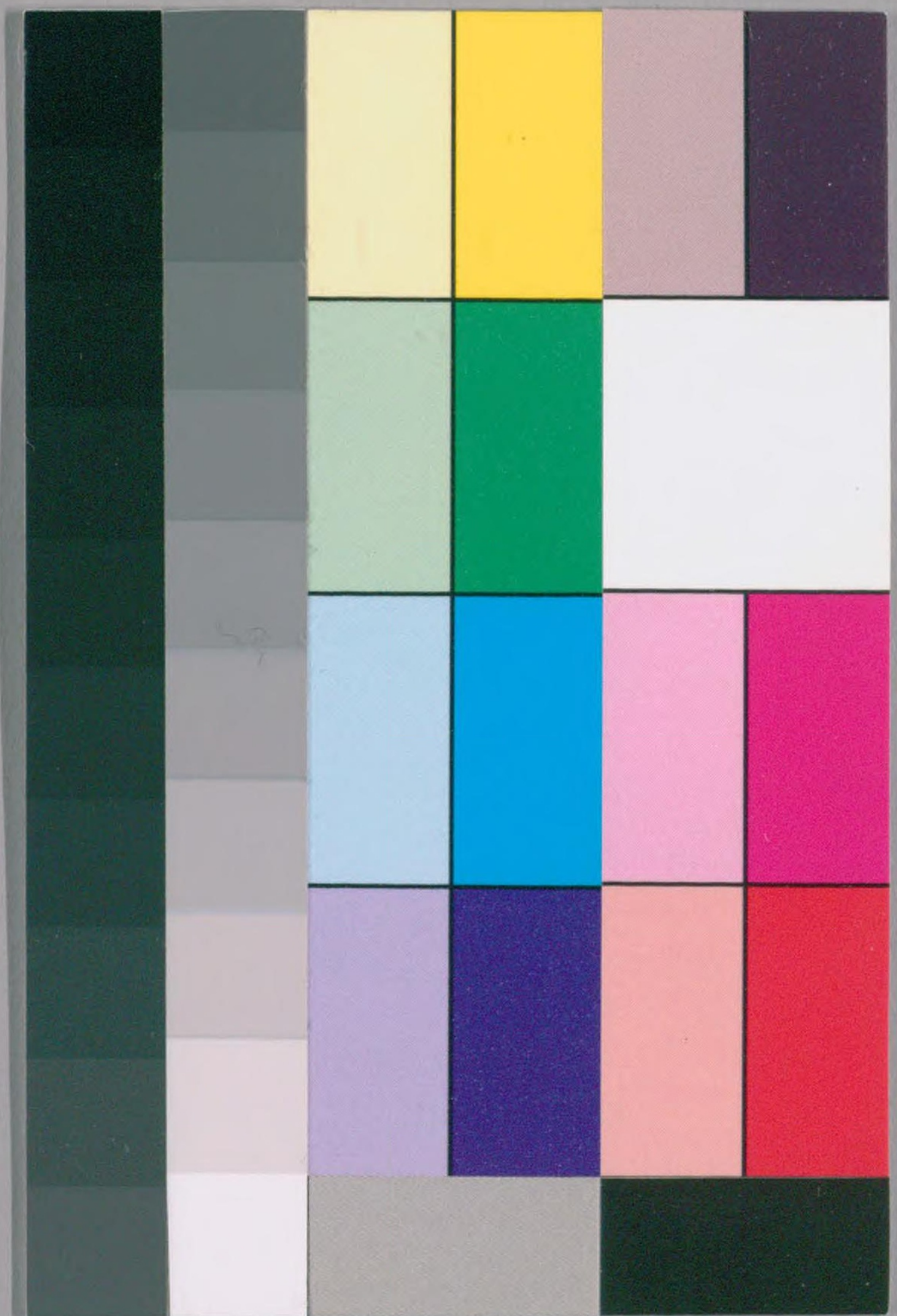
増補地錦抄

九

185

133

九之  
本<sup>ホク</sup>の類  
十八種色付ケ  
花形乃場  
椿二十二種花形場  
茶山<sup>チヤマ</sup>花二十種  
花形の圖







廣益心海抄序

故榎原琴楚納本

松<sup>マツ</sup>ノ枝<sup>エダ</sup>乃<sup>ハ</sup>纏<sup>マツ</sup>と<sup>シ</sup>心<sup>ココロ</sup>細<sup>ホソ</sup>石<sup>イシ</sup>ナ<sup>ク</sup>ム<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>  
 萬<sup>マン</sup>樹<sup>ジュ</sup>ノ<sup>ハ</sup>實<sup>ミ</sup>生<sup>ナ</sup>ル<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>  
 蓋<sup>フタ</sup>亦<sup>モ</sup>且<sup>カ</sup>滑<sup>シ</sup>溜<sup>ル</sup>  
 必<sup>カナラ</sup>沛<sup>シ</sup>妙<sup>ナ</sup>あり<sup>て</sup>庭<sup>ニ</sup>圃<sup>ハ</sup>小<sup>コ</sup>頭<sup>カビ</sup>樹<sup>ノ</sup>  
 花<sup>ハナ</sup>煙<sup>エビ</sup>ノ<sup>ハ</sup>蔭<sup>カゲ</sup>於<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>載<sup>セ</sup>く<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>  
 後<sup>ノチ</sup>奉<sup>ム</sup>ル<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>孫<sup>ミコ</sup>苗<sup>タネ</sup>芽<sup>メ</sup>也<sup>ナリ</sup>





花家おししは 高橋 実取  
 下家との或る所と 宗 孫 苑と  
 いひくた、唐花との 横 崎  
 繁茂を移り 真冬すた、井 邊  
 花錦 紫 稀 紀 の 品 也 億 萬  
 一 斯 ずる 花 宮 氏 園 前 なる  
 庭 籬 ふあそひ 方 乃 の 花 亦

真一 花木と 楊 菜 花 を 分 種 彼  
 と見ふ 種 氏 蘇 七 紙 烏 と なる  
 枝とた ちり あり 紙 か ぎ して 末  
 彩 一 や ちり ひ 花 葉 と 棘 葉  
 と 身 一 羨 心 と 暮 り 入 り の ち や  
 盡て 捨 捐 せ じ せ 新 一 なる ち  
 名 記 一 葎 一 一 測 なる 氏 捨 入



陽子<sup>ニ</sup>の<sup>ク</sup>あ<sup>ス</sup>華<sup>ノ</sup>しよ<sup>ク</sup>ふ<sup>ク</sup>葉<sup>ト</sup>集<sup>ル</sup>加<sup>ハ</sup>  
 し<sup>キ</sup>生<sup>ク</sup>乃<sup>ク</sup>形<sup>ノ</sup>状<sup>ト</sup>と<sup>シ</sup>葉<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>に<sup>テ</sup>稿<sup>カ</sup>  
 し<sup>テ</sup>廣<sup>ク</sup>益<sup>ク</sup>地<sup>ノ</sup>錦<sup>ノ</sup>抄<sup>ノ</sup>ハ<sup>ニ</sup>平<sup>ク</sup>と<sup>シ</sup>あり  
 享<sup>レ</sup>保<sup>ル</sup>亡<sup>ク</sup>貴<sup>ク</sup>死<sup>ス</sup>存<sup>ル</sup>良<sup>ク</sup>日<sup>ニ</sup>

武陽深井の形と文

廣益地錦抄卷之一目錄

木の分

|      |       |       |      |
|------|-------|-------|------|
| 木敷   | わさく   | 白うん木  | あさぎん |
| りる敷  | 玉ころ   | 丹桂    | 眸子の木 |
| 七ふど  | ふぐ    | うぐいす  | 黒牡丹  |
| む松   | 蜜桃    | 源平あまう | 工のい  |
| おまか竹 | 源平あまう | 沙名桃   | 白てい  |
| さくろ木 | ふん桃   | 林之月梅  | 西野   |
| おんる  | 多梨    | 小あま   | 山むら  |
| 楊とま  | そこ    | 白梅    | 山白   |
| 八丈   | けら    | そ     | 蘭葉   |



○椿花散

ト休

白鶴

ひらのめん

白りんぎ

玉小箱

八宝源氏

沙市車

いぢりごころ

玉ふやう

○茶山花散

初衣

うらみ

わらう魚に

くらぶ糸

ちやとん

香山

小くら

ハチ

うすりう

水車

うひすた

いさごや

そと魚に

きんぎょ

やうせうお

やうせうお

らんべふ

きぬ

本散

本春細  
枝多く竹花散

あらのとくはさぐのちう  
とんをば黄友とさう骨  
末の死ひらき生いそふ  
めくくさえさのちのちの  
うらん兵とくたの二格  
ありうらんをゆき花  
ぶらうあぐささぐのてよ  
し一本とまきておのが  
ゆ花さく時をきかなく  
てさむらひのらり葉と  
りいせい

わさわ

本春末  
枝葉をまきけり

て大木とあり三月末四月  
は花さく色や下へさ  
りそ花散おわくつさ  
せ花ふり  
白雲本  
本春末  
葉をばば葉の  
おとく枝をさり大木とあり  
下へさぐのあさうはせり  
花のさくあさうはせり  
少とくさ花散下  
りいせい





のろ敷

通春末

まめぢらさの地あり花  
乃のろびさ地みさ志  
ろかさのありさくも  
思又すふさのり花形も  
ふとくさつん本らら  
さくてももあ多く付

丹桂

木秋中

中く花乃又折あり  
丹乃のろ手進んごとく  
丹桂といふありのく  
と桂ともいへしその花  
のく肉葉もむむら

玉桂

木

かまざれて葉散あかひ  
乃葉のよとく敷方へお  
結して付くか葉のま  
つりふ用れろくもさ  
かりといふ花ハ二月  
のころ大豆乃もれれ  
くらりよてさゆよさ  
ど葉と葉葉せり  
獲雷とのぞくといは  
り紗ちく桂かれお  
葉見よとくは葉

のく其のろくく  
やぐせの

總牡丹

本春末

ふさのよとく葉と葉  
ら進ありよち付さ  
乃あくくはくく  
牡丹の花とらるる  
さくふさやんとも花

七竈

本春末

まめぢらさの地あり  
花乃のろびさ地みさ志

羽子木

通本

の木あて枝散を付  
葉はらひくまゆくと  
の木の葉は又ゆる後の  
まよ又葉とびと葉の  
くアし女児乃はあそふ  
羽子のよとくは葉と葉  
のれらうあ物とに枝つ  
り葉と葉と葉と葉  
地まよはくふ日葉山ま  
わり葉交山まあり  
一存とよの本とも云



況み鶴をとり及へりは  
き初林を延びよふふの  
とくさうり花も実も  
買とてい本も雪との  
く徳のりておちりく梅  
を花梨せの

ふぐ

本

紫の相乃紫れ  
とく本を数丈ふのび  
て枝本たありの紫れ  
用とて既のくもどけ  
本あのをそて一石様  
いふあつとらとら  
この本家居乃るくよ

ほくろのそん本  
あてとら乃ら  
角の月八をたあ

あま

本 本 中

一葉あまの葉  
とて実秋をく  
くむとまのうの  
本の皮くくして  
あつとらにいど  
おれらありの

うぐい

通本 本 本

及小本之紫れ  
とく本を初  
まき乃初まの  
又花とて  
あつとらに  
乃あまの

老松

本

紫れも松なり  
色ち乃とく  
さいたり  
かまらり  
一各ち

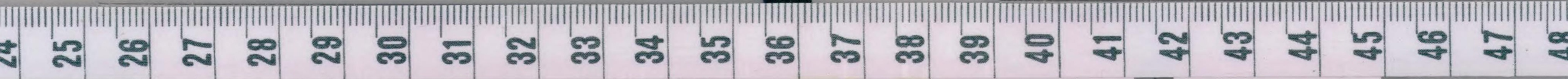
いふと用進  
おほり  
全をい  
か不  
養甘  
らわ  
又の名  
小今  
花を  
さげ  
一所  
くら  
長尺

長尺

長尺











らん木





冬桃 春中

のよそそめつしう  
とゆへ中やうあり  
大なる後秋とて  
あうらまじく  
さよまぢく  
けしきゆとり  
さうらまじく

凍早あめんたう 春中

本も葉もほま  
あめんたうあり  
あふあうく  
あめんたうあり  
あめんたうあり  
あめんたうあり

凍早あめんたう 春中

本も葉もほま  
あめんたうあり  
あめんたうあり  
あめんたうあり  
あめんたうあり

沙雪桃 春中末

冬梅 春中

三四人  
多く  
花うす  
く  
し  
は  
さ  
む  
ら  
い  
あ  
め  
ん  
た  
う  
あ  
り

白きつ 春中

本も葉もほま  
あめんたうあり  
あめんたうあり  
あめんたうあり

白きつ 春中

本も葉もほま  
あめんたうあり  
あめんたうあり  
あめんたうあり

寒梨 春中

本も葉もほま  
あめんたうあり  
あめんたうあり  
あめんたうあり



あてさ死まそさるの  
ほみひしくもく乃の  
こそ極大のん花が  
し子さしきさ七八分  
のりさ乃さうの入ま  
のし

**揚梅** 去中末  
花散うくさるのそ  
くへさ死まそさるのそ  
やあ大のん花が  
さす七八分あり本もあ  
こ梅乃ししくもく乃の  
さるのそさるのそ

さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ

**芳野さる梅**

本を葉もつこの箱  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ

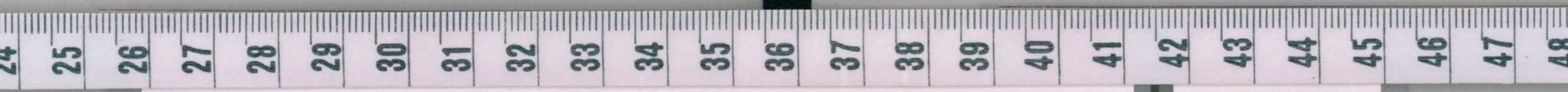
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ

**芳梅** 花のせうのそ

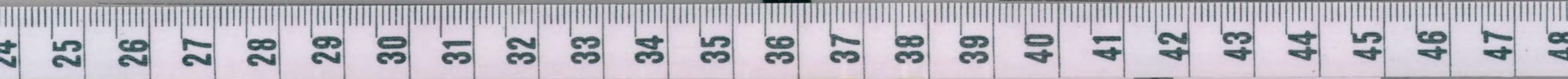
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ

**林青月白梅** 冬初か

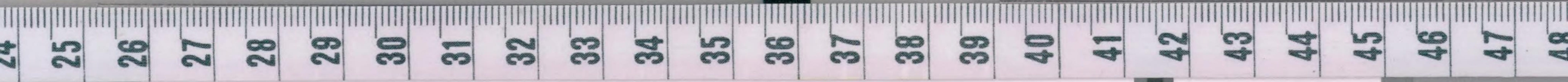
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ  
さるのそさるのそ













ト付様 花のまゝなりて  
らんとして中

くろわろふりんのひと  
花中一まゝより見  
りり熱く通あつた  
少々のうそくせむ  
たぐひか

挿結酒椿 花のうき  
なでるの中見えぬ  
熱中あつた花を  
又花の心は二  
れは茶山花

花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり

花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり

花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり

白膳椿 花のまゝなり  
らんとして中

くろわろふりんのひと  
花中一まゝより見  
りり熱く通あつた  
少々のうそくせむ  
たぐひか

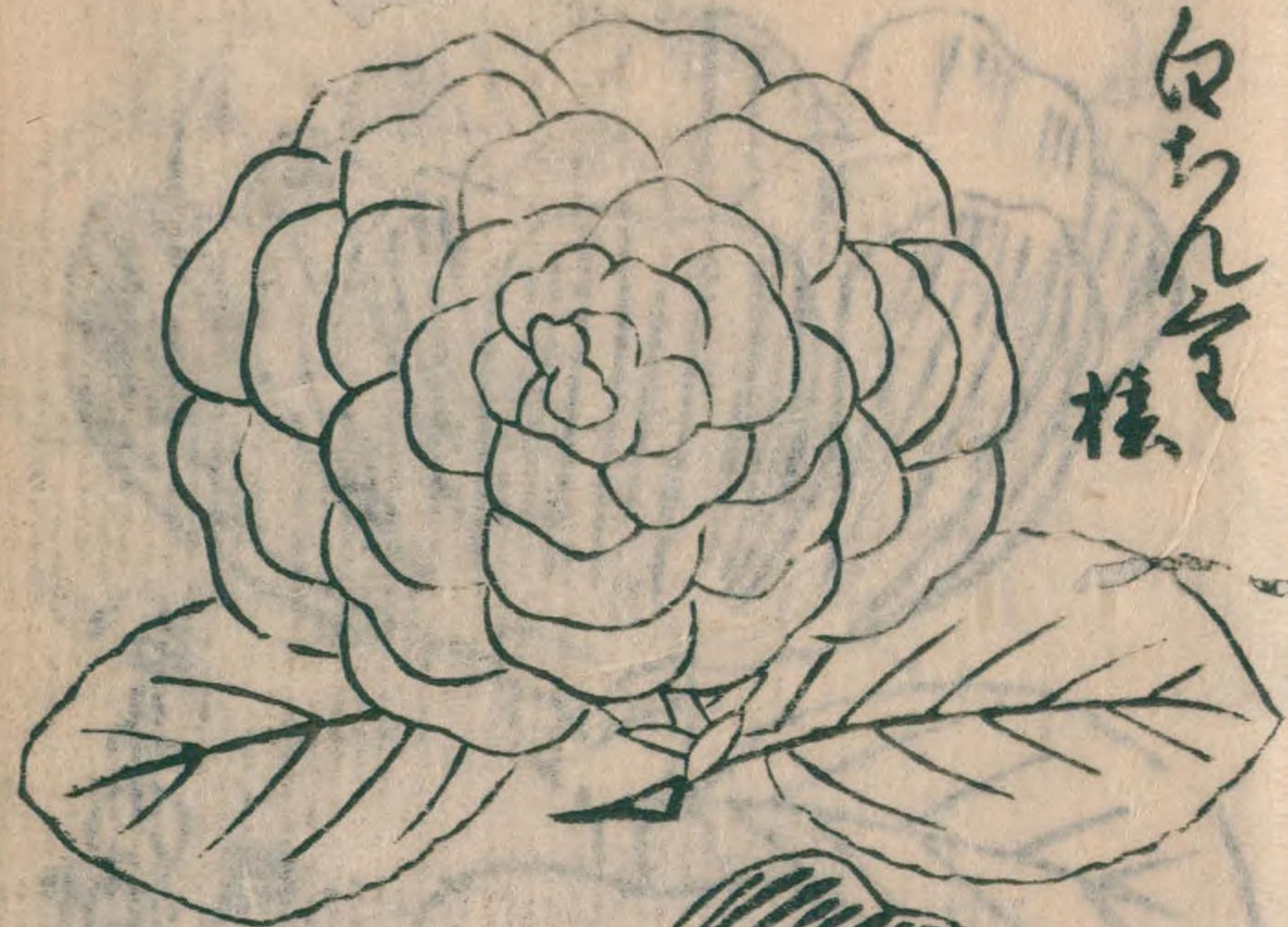
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり

花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり

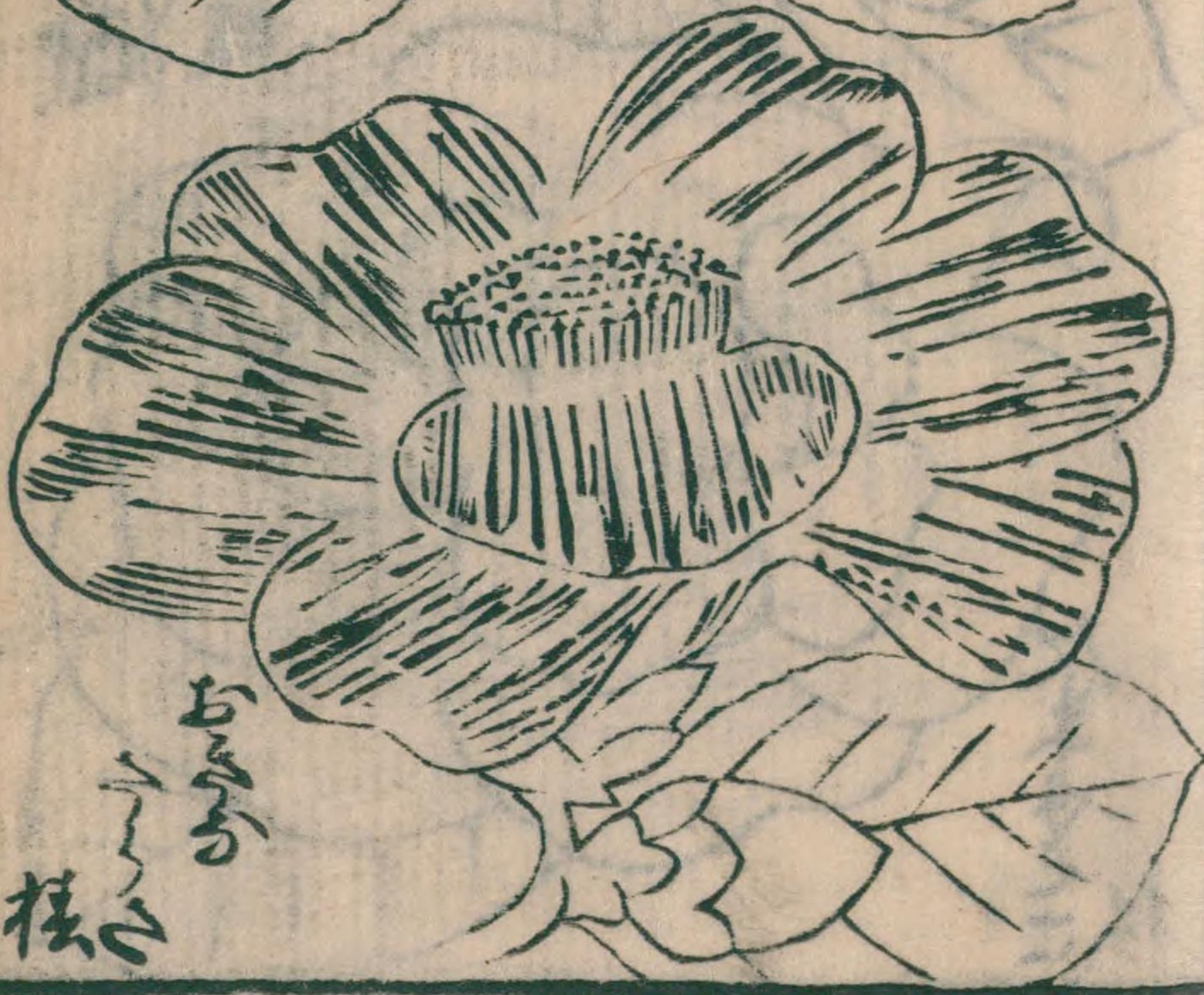
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり

花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり  
花のまゝなり

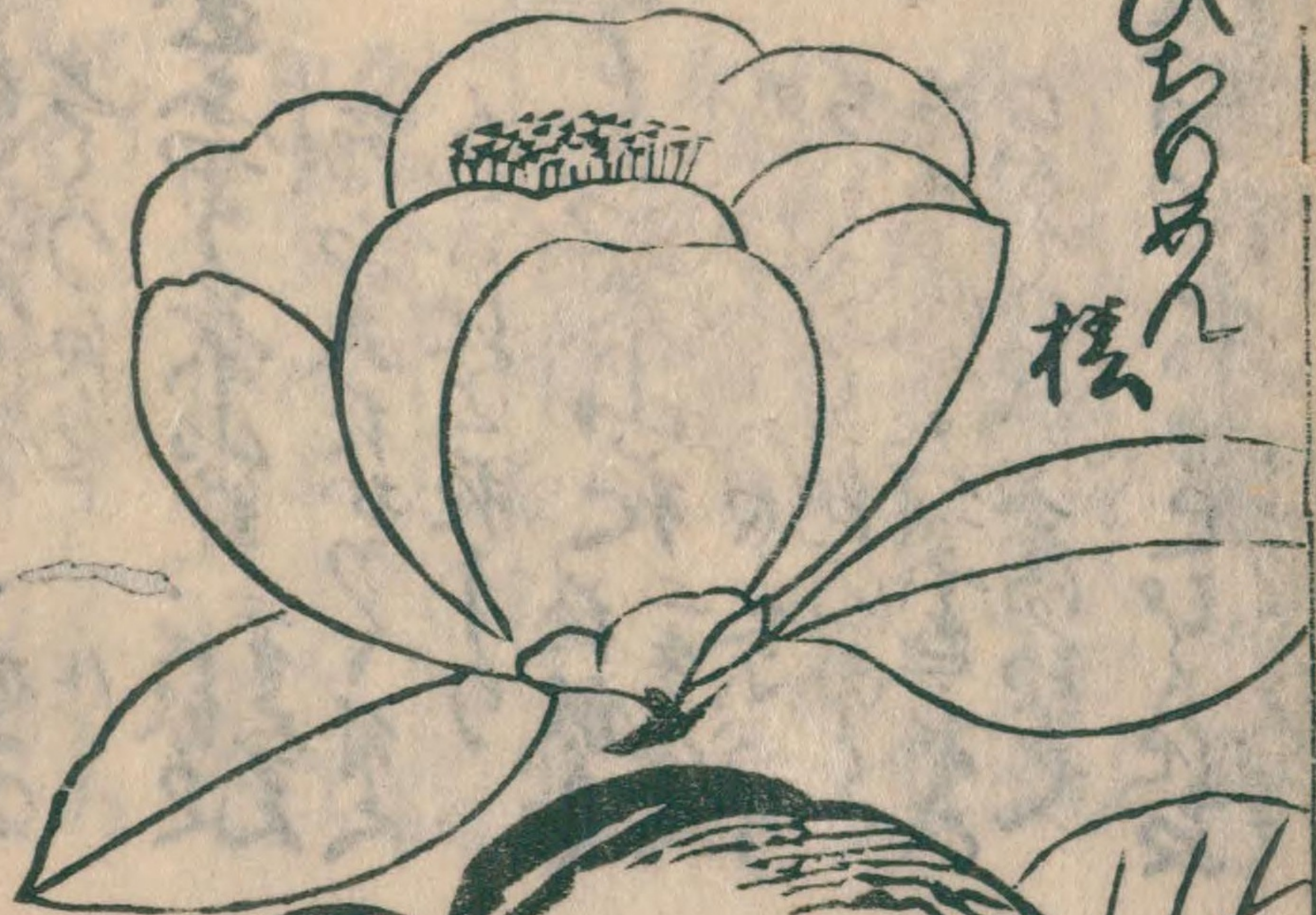




白らんき  
様



白らんき  
様



白らんき  
様



白らんき  
様







白牡丹  
様



御西車  
様



おきの  
様



大木  
様

巻十  
老九

十一







椿  
びん

大  
つばき  
びん

卷九

十四



大  
つばき  
びん

大  
つばき  
びん

卷九

十三











牡丹花



牡丹花



牡丹花



牡丹花

卷九

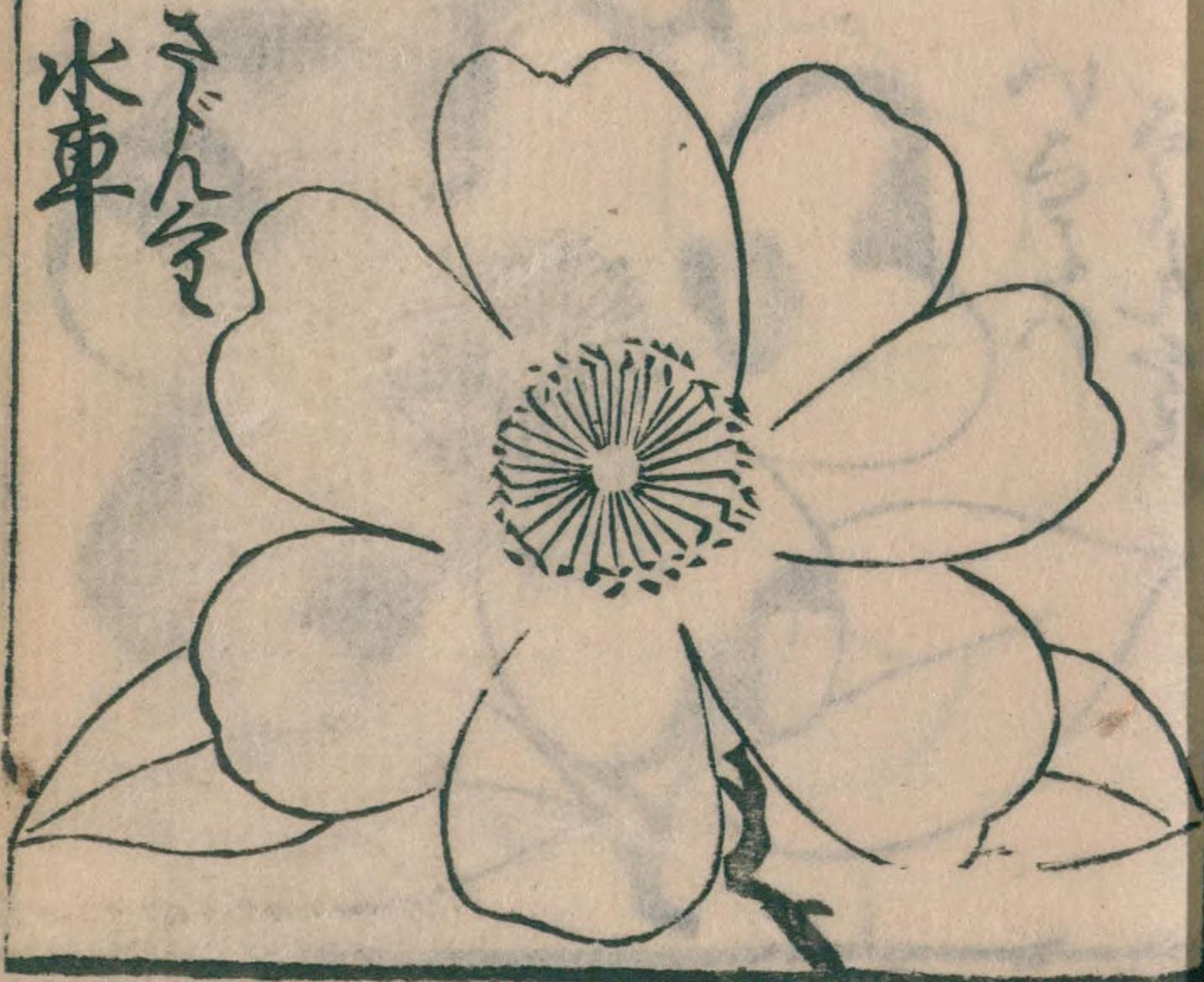




卷九



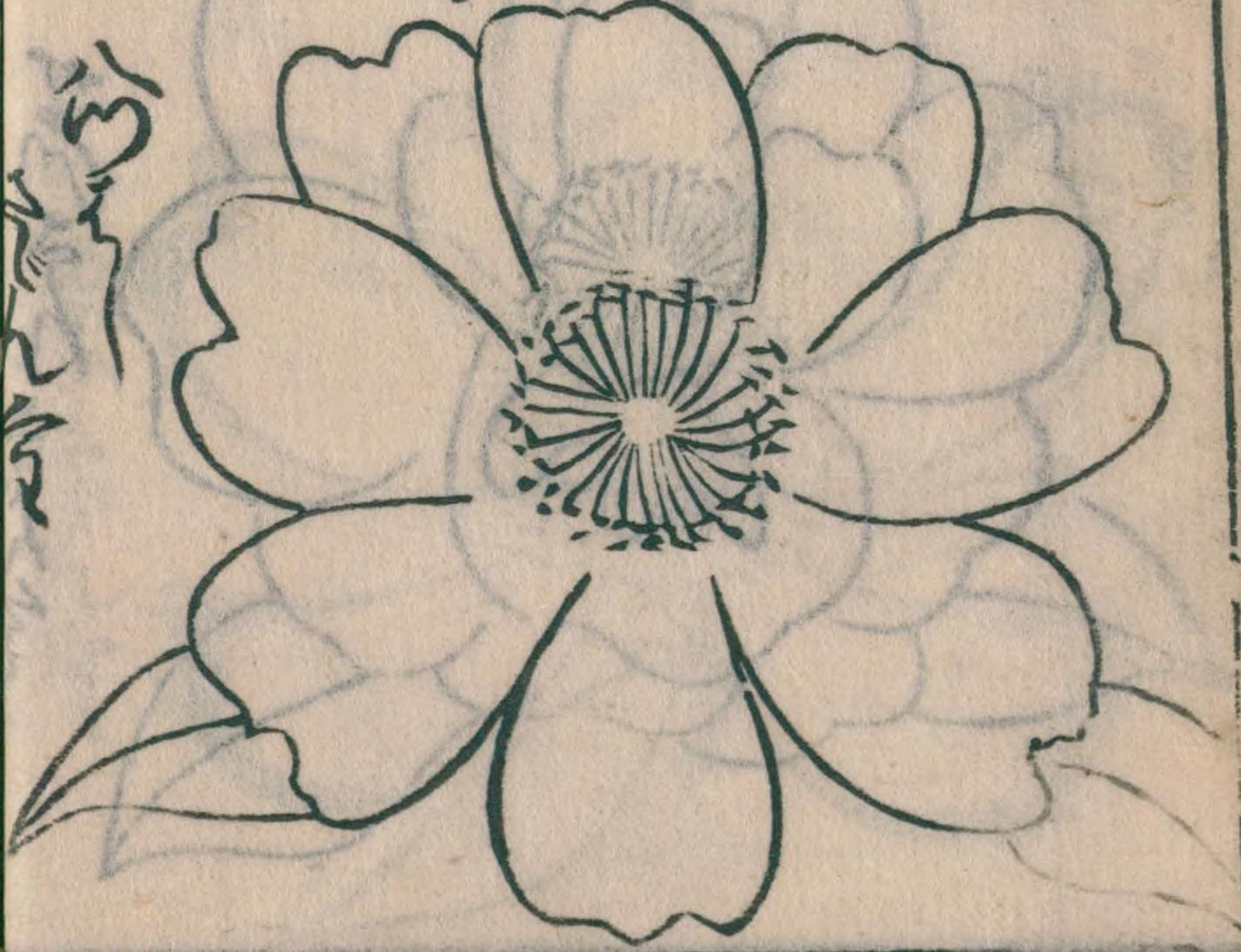
うすわり  
きんぎょ



氷車  
きんぎょ



小づら  
きんぎょ



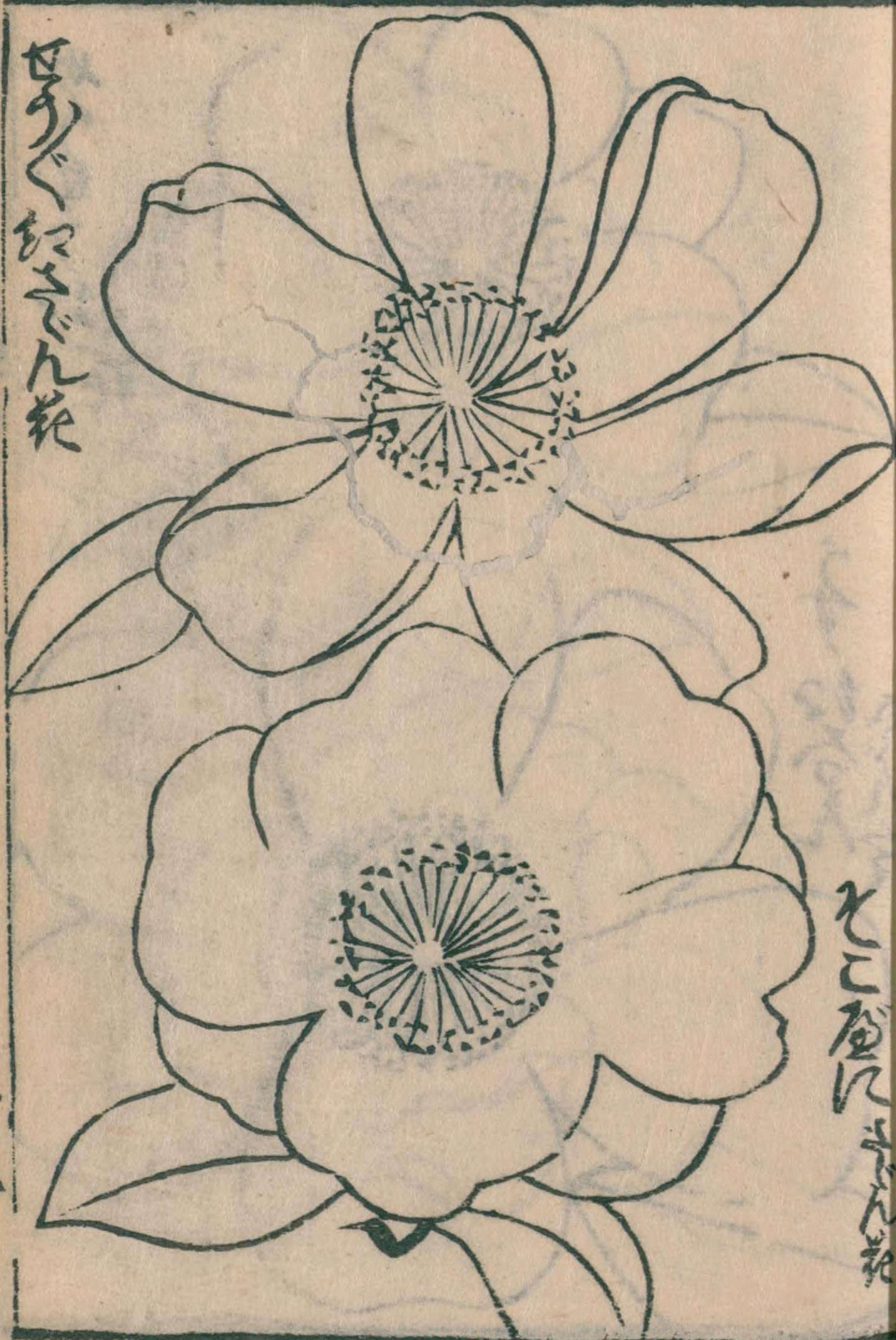
きんぎょ

卷九

廿六







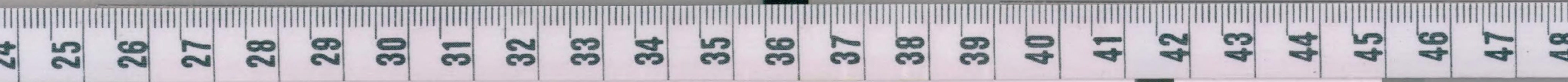
せうぐいせん花

せうぐいせん花



せうぐいせん花

せうぐいせん花







らん魚に  
さじん花

らん魚に  
さじん花



めうぎょうに  
さじん花

めうぎょうに  
さじん花

らん魚に  
さじん花

らん魚に  
さじん花

らん魚に  
さじん花

らん魚に  
さじん花







八丈新

八丈新



八丈新

八丈新

卷九

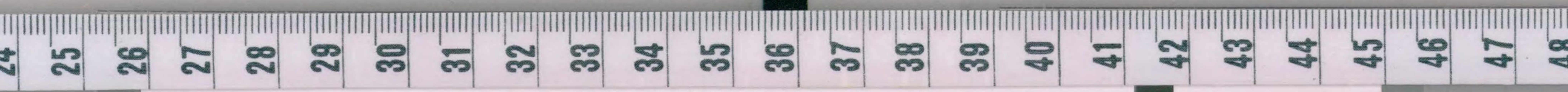






巻九

三





老松 おいもち



● 巻ガ

松の皮は厚くしなやか  
 長くとりふ又老松は  
 白くひらけそとを  
 さうりよあつてさ  
 かなは松の皮が  
 候と七るんけとり  
 落葉のわとつて  
 切くべしとては  
 又三木松は  
 葉とつては  
 けそとつては

ほへ松葉の  
 少きなり

山白

本と実古山白  
 びとて実乃き  
 びとては山白  
 山白はたて  
 とよは後を  
 実の  
 て

白梅

子の梅  
 一は後ハ  
 大は

● 巻ガ

● 巻ガ







おんあけ

巻九

おんあけ乃てまをあらわ  
 さまとくふふのたさく

光三白毛長 本も長也  
 長まこと

花ひよふおんあけの月  
 ちろくやあけの月  
 ありあけのたさくを

朝鮮新 交初中

白ひよふのたさく  
 ちろくやあけの月  
 ありあけのたさくを

この本よ撥てくつ  
 く直花乃るをふよ

おんあけ 交初中

るふひつた色つを  
 せん花おほくささ  
 せん乃てくささ  
 せん乃の八丈ち  
 せん乃の八丈ち  
 せん乃の八丈ち



杉

杉乃ふしとて  
の栢よりそふとく口  
みす余まてとふりま  
ま余よのかり葉の色  
ちちりまき編わりて  
ゆらぐとくまきくん  
かむしとくもありの所  
とらうとくめいあて  
あつとくまきくん

栢

栢乃ふしとて  
ま余よのかり葉の色  
ちちりまき編わりて  
ゆらぐとくまきくん  
かむしとくもありの所  
とらうとくめいあて  
あつとくまきくん

ひらら木

ひらら木 木の栢の  
葉を栢乃葉に似  
とく葉の堅わり秋の  
は葉とじとぶ南天乃  
とくあてあん天より  
粒をわねおまらう  
栢のてられとくあて  
にわらうとく長二又  
まきくまきくあて  
すまきくまきくあて  
はまきくあてあて  
まきくまきくあて

小式部

小式部 木の栢とて  
秋乃何と葉まきく  
葉の也なじとて  
葉の栢のまきく  
秋乃何と葉まきく  
葉の也なじとて  
葉の栢のまきく  
秋乃何と葉まきく  
葉の也なじとて  
葉の栢のまきく

山

山 木の栢とて  
秋乃何と葉まきく  
葉の也なじとて  
葉の栢のまきく  
秋乃何と葉まきく  
葉の也なじとて  
葉の栢のまきく  
秋乃何と葉まきく  
葉の也なじとて  
葉の栢のまきく

そよ木

そよ木 木の栢とて  
あく葉まきくと志  
かり秋葉ありの葉の  
ちちりまきく  
かりてあてあて  
まきくまきくあて  
まきくまきくあて  
まきくまきくあて  
まきくまきくあて

よき木

よき木 木の栢とて  
あく葉まきくと志  
かり秋葉ありの葉の  
ちちりまきく  
かりてあてあて  
まきくまきくあて  
まきくまきくあて  
まきくまきくあて  
まきくまきくあて

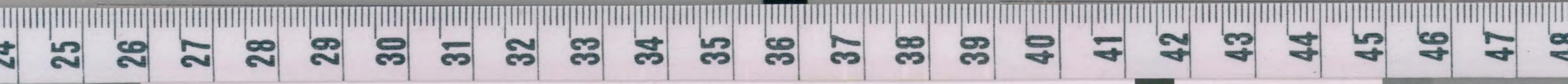




185  
20  
133

香木 香木は松乃の葉の  
冬は葉を落とすまじりて其  
又此の葉を叩いて酒にひ  
らく花乃がしら天蓋の  
疑のどくにてゆきまの  
も葉花より致した  
くをく 葉を叩  
又極るまよ本より林  
突ありのまよかこん乃  
どくはらうまよをく  
まよの又かごめあり

色白くまよのどくはらう  
葉の葉と強まよのまよ  
魚の葉乃くまよのまよ  
てゆめあり食味其酸  
二膳 本は枝毎に二かづの  
方へまよ極よあり小  
枝よふまよ二方(出)花  
ハまよ中まよ初まよひ  
らく花乾葉乃まよれり  
ら成物多まよありまよあり  
乃どくまよらまよまよ  
花中まよまよの皮は  
まよの紙はまよまよの紙  
まよ皮まよまよあり





185

東 京 圖 書 館

和書門

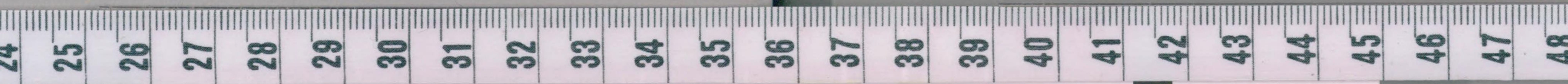
音  
樂  
類

別  
札  
函

8  
三  
架

133  
二  
號

二  
の  
冊



国立国会図書館

タイトル『地錦抄 16巻附録3巻』 請求記号 185-133

ガラス使用